



津久井治男副知事(左)から大賞のトロフィーを受け取り、特殊メイク姿で喜ぶ飯塚さん(右)日本トータルグリーンドーム前橋

群馬イノベーションアワード



GIA
Gunma Innovation Award

本県発映画でまちづくり

飯塚さん(前橋)大賞

13組、独自視点でプラン

12回目を迎えた起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード」(GIA) 2024(上毛新聞社主催、田中仁財団共催)のファイナルステージが14日、前橋市の日本トータルグリーンドーム前橋で開かれた。最終審査に臨んだ13組が社会課題の解決や暮ら

の変革につながるような視点を持った事業プランを発表。最高賞の大賞はベンチャー部門で出場し、「映画づくり」まちづくり」群馬発の世界で戦える俳優と映画づくりプロジェクト」を、顔に特殊メイクを施し提案した映画監督、脚本家でスタジオ6・11(前橋市)代表社員の飯塚花笑さん(34)が輝いた。

応募323組から2回の審査を通過した中学生から社会人までが熱のこもった3分間のプレゼンテーションを披露。協賛社に加え、来場者が投票し、この結果を参考に慶応大の国領二郎教授ら6人が審査した。ビジネスプラン部門は、高校生以下の部で前橋商業高3年の江戸美月さん(17)、大学生・専門学校生の部で慶応大3年の渡辺光祐さん(22)、一般の部でデジタルスウィッチ(渋川市)社長の田中秀彰さん(38)、ベンチャー部門はMU(ミユウ、高崎市)社長の村田

悠典さん(35)がそれぞれ入賞した。今後の成長が期待される奨励賞には共愛学園前橋国際大3年の春山奈緒さんの(22)が選ばれた。

本県を拠点に活動するラッパ、NAIKAMC(ナイカ エムシー)さんの思いのこもった言葉のパフォーマンスで開幕。プレイクダンサーのSHADE(シェイド)さん、Marko(マコ)さんはダンスで盛り上げた。本県にゆかりのある20〜30代の若手起業家4人が起業への思いを語ったトークセッションもあった。

実行委員長の田中仁・ジンスホールディングスCEOは閉幕後の交流会で「自分自身をイノベーションして人生を切り開いてほしい」と期待を込めた。GIA協賛社や歴代入賞者らが43のブースを出展した「群馬イノベーションマーケット」も開かれた。

(文 大栗和範、写真 新井諭)

関連記事

5/7、19面